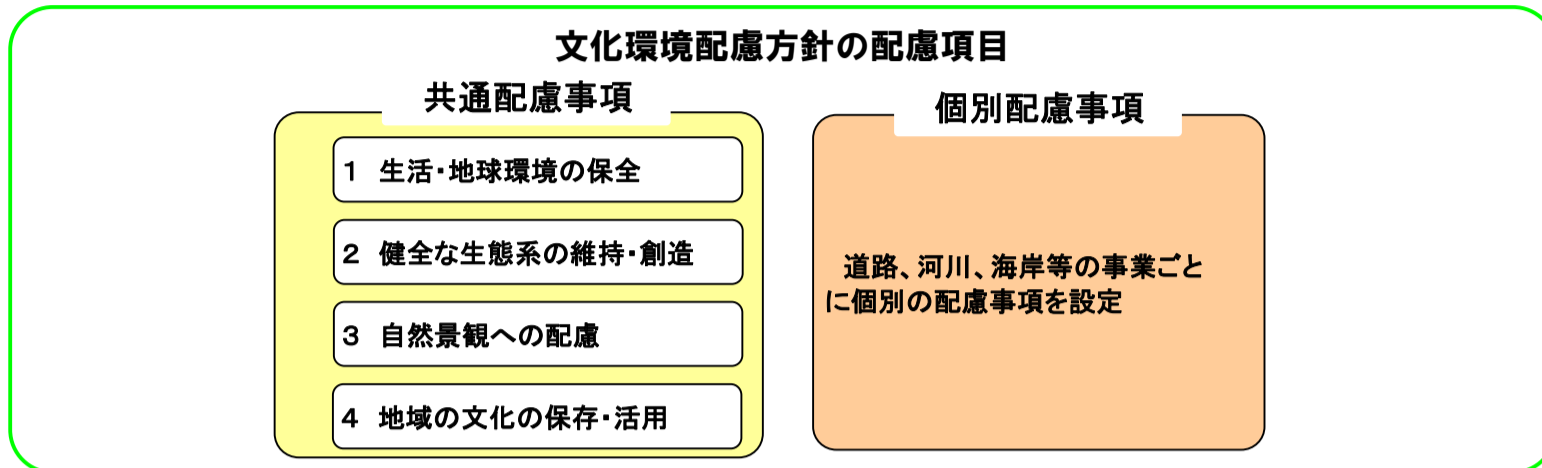


平成31(令和元)年度 文化環境評価システムの取組結果について

1 文化環境評価システムとは

県が公共事業等のハード事業を行う際に、「文化環境配慮方針(共通・個別配慮事項)」に基づき、環境負荷の軽減と地域文化の保存・活用を継続的に
行う全庁的なシステムとして平成11年4月1日から実施しています。
事業費が一定規模以上の対象工事について、工事発注前に検討会を行い、より効果のある環境配慮を検討し、工事後は実施できた環境配慮について
情報発信・情報共有に努めていく取組を行っています。



2 平成31(令和元)年度完了事業一覧 (前年度以前からの続)

事業	検討年度	工事名
道路	H29	県道窪川船戸線(岩土トンネル)防災・安全交付金工事
道路	H29	国道321号社会資本整備総合交付金工事
道路	H29	国道494号社会資本整備総合交付金(水口トンネル)工事
用排水	H30	野市地区地域ため池総合整備黒谷池ため池整備工事
用排水	H30	三山池地区耕地自然災害防止堤体その1工事
ほ場	H30	利岡地区経営体育成基盤整備ほ場整備工事

3 具体的な施工事例について (抜粋)

一般道路事業	高岡郡津野町岩土	
<p>■県道窪川船戸線(岩土トンネル)防災・安全交付金工事</p> <p>【事業概要】 トンネル工(NATM)L=521m 工期:H29.12~R1.11.26</p> <p>当現場は四万十川流域に位置しており、自然環境の保全、景観に重視して作業環境に応じた仮設備等の配慮が必要と思われることからイメージアップのイラストを施工し、景観に配慮した。</p> <p>【主な環境配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騒音・振動・水質汚濁等の防止対策徹底 ・周辺景観に調和する工作物のデザイン 	 <p>濁水処理設備設置完了</p>  <p>防音壁設置完了 (コンクリート充填2層式)</p>  <p>工事イメージアップ 防音壁へのイラスト (渓流の鳥)</p>	<p>【騒音・振動・水質汚濁等の防止対策徹底】</p> <p>・トンネル掘削に伴う濁水等は、濁水処理施設にて処理をして、基準値以下に浄化した。また、騒音・振動は着手前及び着手後に測定を行い、管理値を超えないよう防音扉(コンクリート充填2層式)を設置し、仮設備には防音壁を設置した。</p> <p>【周辺景観に調和する工作物のデザインの採用】</p> <p>・施工機械の周囲を防音シートで囲み、周辺への騒音の影響を低減する。</p>

一般道路事業

■国道321号社会資本整備総合交付金工事

【工事概要】

橋梁上部工 L=116.7m
鋼2経間連続非合成箱桁橋 N=1式
工期: H29.9.12~H31.3.17

当箇所では橋梁の施工に加え、両岸の切土、盛土が発生する箇所であるため、全体に渡って景観対策を実施する必要があった。
山側切土法面については、自然状態に近いところまで戻す「ポット苗工」を採用して、防護柵等にも景観色を使用して整備を実施した。

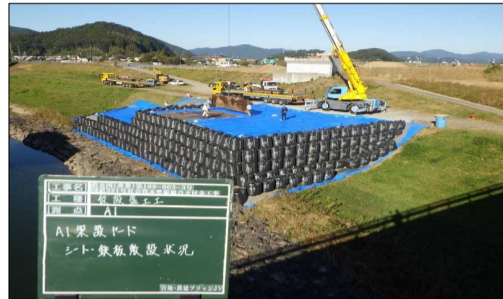
【主な環境配慮】

- ・必要最小限の地形改変
- ・騒音・振動・水質汚濁等の防止対策徹底

四万十市 山路



【周辺景観に調和する工作物のデザインの採用】
高欄(防護柵)については景観色(ダークブラウン)を使用することにより景観の調和を実施した。



【騒音・振動・水質汚濁等の防止対策徹底】
・盛土上面に漏油防止シートを全面に敷設し、作業機械の漏油防止を実施した。

用排水施設事業

■野市地区地域ため池総合整備黒谷池ため池整備工事

【工事概要】

ため池 L=73.8m
鋼矢板圧入 L=73.8m 2列
取水施設工 鉄筋コンクリート管 φ300 L=36.0m
洪水吐工 ラビリンス堰 B=6.6m L=45.6m

1. 堤体の在来植物の保護に対する配慮
 2. 堤内の魚介類の保護に対する配慮
- 本地区における検討過程では、堤内の環境に関する情報収集を行っており、円滑な事業推進を図るため、地元住民と協議を行ない、環境対策に係る地域の理解に努め、協力の得られる範囲で実施しを行った。

【主な環境配慮】

- ・多様な生態系の維持・創造
- ・生態系に配慮した工法等の工夫

香南市野市町本村



【多様な生態系の維持・創造】
在来植物の保護のため、矢板工法や仮設道計画を可能な限り現況堤体の改変面積を最小にした。



【生態系に配慮した工法等の工夫】
・魚介類を一時的に避難する仮貯水池は、サギ等の鳥類の捕食圧を軽減するために、可能な限り湛水面積を広くし、最深部の水深を約0.9m確保した。